

2016 年度

平和堂財団環境保全活動助成事業



夏原グラント

活動報告書

夏原グラントスマートフォン用サイトができました。
<http://natsuhara-g.com>



琵琶湖およびその流域の自然環境の保全活動を応援します

主催 公益財団法人 平和堂財団

協賛 株式会社 平和堂

ごあいさつ

公益財団法人平和堂財団は、2012年に平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」を創設して、滋賀県及び京都府内におけるNPO法人・市民活動団体・学生団体等が行う琵琶湖およびその流域の自然環境の保全活動に対する助成を開始しました。

5年目を迎えた2016年度は47団体に助成を受けていただきました。単年度の助成に終わらないように、最長3年間の継続助成をすることで団体の活動の活性化を目指すとともに、基盤強化への取り組みを行うステップアップ助成にも取り組んできました。

また、助成事業に関連して例年通り専門家による「市民環境講座」の開催に加え、「環境保全団体交流会」を開催して多くの皆様にご参加いただきました。

このたび、2016年度の助成事業が終了し、助成を受けていただいた団体からの活動報告をまとめた「平和堂財団環境助成金事業 夏原グラント活動報告書」が完成しました。滋賀県・京都府内の環境に関わる多様な活動について、本冊子でご報告させていただいておりますのでご高覧いただければ幸いです。

公益財団法人平和堂財団



目次

助成金の概要、選考基準、スケジュール、選考委員	1 P
応募状況、説明会と事前相談会、市民環境講座	2 P
公式サイト、平和堂店舗等用冊子、贈呈式記念写真	3 P
2016年度 助成事業・団体一覧表	4～5 P
事業報告 新規採択16団体	6～11 P
コラム「交流会2016」「ロゴマークとリンクバナー」	11 P
事業報告 継続2年目16団体	12～17 P
コラム「表紙・裏表紙の写真の紹介」	17 P
事業報告 継続3年目13団体	18～22 P
事業報告 ステップアップ2団体	22 P
表彰された団体の紹介	23 P
活動のアルバム	24～25 P

助成金の概要

●名称

平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」

※グラント「grant」＝助成金

●対象となる事業

この助成金の対象となる事業は、下の（１）～（３）のもので、内容が先進的で他の団体のモデルとなるものです。

（１）環境保全に関する実践活動

広く市民の参加を得て行い、活動の普及が期待される水質保全、森林・里山保全、生物の多様性維持、その他自然環境の保全に関する実践活動

（２）環境保全に関する教育啓発・人材育成活動

広く市民を対象とする環境保全に関するイベントの実施、学習会の開催、その他環境保全に関する啓発、知識の普及、人材育成の活動

（３）環境保全に関する調査研究活動

（１）または（２）の活動推進に資する調査研究活動。ただし、調査研究活動は実践活動に結びつくものとし、学術的な活動は対象としません。

●助成金の対象となる団体

事務所を滋賀県内・京都府内に有するか、または滋賀県内および京都府内で活動している環境保全活動に取り組んでいるNPO法人、市民活動団体、または学生団体

●助成金の額

（１）NPO法人、市民活動団体

1件あたり上限50万円

（２）学生団体

1件あたり上限30万円

選考基準

（１）滋賀県内・京都府内の環境保全や地域創造に寄与すると認められること。

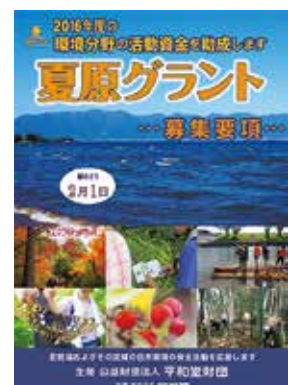
（２）他の団体のモデルとなるような先進的なテーマ設定や事業展開が期待されること。

（３）県民・府民の自主的な環境保全活動につながる波及効果が期待されるなど、成果が広く市民に還元されること。

（４）適切かつ効果的な事業手法がとられていること。

スケジュール

2015年	11月28日	説明会・事前相談会の開始
	12月1日	募集開始
2016年	2月1日	募集締め切り
	2月27日	第1次選考会
	3月13日	第2次選考会・公開プレゼンテーション
	4月16日	贈呈式（クサツエストピアホテル）
	4月1日から翌3月31日まで	各団体の助成金事業実施期間



2016年度 募集要項

選考委員

仁連 孝昭	滋賀県立大学 名誉教授
内田 香奈	きょうとNPOセンター 副統括責任者
西野 麻知子	びわこ成蹊スポーツ大学 教授
山田 脩治	株式会社 ヤマプラ 代表取締役
脇田 健一	龍谷大学 教授

（敬称略・順不同・2016年度選考当時）

応募状況

新規事業応募数	29事業	うち採択16事業
継続（2・3年目）事業応募数	29事業	うち採択29事業
ステップアップ応募数（1・2年目）	5事業	うち採択2事業
助成総額		13,967,000円
団体の活動分野	実践活動	47団体
	調査研究活動	2団体

*実践も併せて行うため重複

説明会と事前相談会

「夏原グラント」への応募を考えている団体のみなさまを対象に、説明会と事前相談会を同日開催しました。説明会では応募に関する説明と質問にお答えし、終了後は個別の相談に対応しました。応募書類の書き方、アピールできる事業企画書の書き方のポイントや、予算書の書き方、公開プレゼンテーションのコツなどについての質問がありました。相談には夏原グラントの運営を担っている、しがNPOセンターのスタッフがあたりました。

開催日	11月26日（土）	いずみホール（木津川市）
	11月28日（月）	草津市立まちづくりセンター（草津市）
	11月29日（火）	守山市中心市街地活性化交流プラザ／あまが池プラザ（守山市）
	12月2日（金）	烏丸ビル2階 Flag 三条／きょうとNPOセンター事務所（京都市）
	12月10日（土）	宇治市文化センター（宇治市）
	12月11日（日）	臨湖（県長浜市）

市民環境講座

この講座は助成団体だけでなく、実際に保全活動に取り組んでいる団体やこれから取り組んでいこうとする方を対象に、生態系に配慮した環境保全活動の「理論」と「実践」について、第一線でご活躍の講師をお迎えして開催しました。

●第1回 8月30日（火）
「生態系にやさしい環境保全活動とは？」
講師：西野麻知子さん
（びわこ成蹊スポーツ大学教授）

生態系と生物多様性など、環境保全の基本的なことについて話していただきました。また、自然再生事業を進める上で間違いやすい事例についても、わかりやすく説明していただきました。

●第2回 9月6日（火）
「うまれる・つながる・ひろがる
～菜の花プロジェクトの活動を通して～」
講師：藤井絢子さん
（NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表）

琵琶湖の赤潮とせっけん運動など、滋賀県の環境保全運動の歴史や藤井さんご自身の活動のふりかえりや、活動がつながり全国的に広がっていった話をしていただきました。



公式サイト

- 夏原グラント公式サイト
<http://www.natsuhara-g.com/>

夏原グラントの概要や助成の実績など、詳しく掲載しています。

応募前のQ&A、また、事業実施中でのQ&Aも掲載するなど、応募前から終了後までいねいな対応を心がけています。募集要項、申請書類、採択団体となってから使用していただくロゴマークなどがダウンロードできます。

プロジェクト活動レポートのコーナーでは、事務局スタッフが活動の現場を取材させていただき、豊富な写真とともに紹介しています。

ぜひアクセスしてください。携帯電話・スマートフォンでも見ていただけます。



平和堂店舗等用冊子

夏原グラントを環境保全や市民活動に関心のある人だけではなく、もっと広く多くの人に知らってもらうため、平和堂店舗等用冊子を作成しました。2013年度から2015年度まで、3冊発行したこの冊子は、平和堂大型店舗20店に100部ずつ配置したほか、環境学習施設や、自然体験施設などに配布しました。

助成事業の内容についての紹介と活動の写真を入れた構成で、A5判のハンディサイズにした手に取ってみやすいものとなっています。



贈呈式記念写真



「夏原グラント」第5回助成金贈呈記念交流会 2016年4月16日 クサツエストピアホテル

2016 年度採択事業紹介

2016年度に夏原グラントの助成を受けた団体の活動をご紹介します。「夏原グラントで実施した事業の紹介」「環境や地域への貢献」「助成金が活きたと思う点」の3つについてお聞きしました。

新規16事業、継続2年目16事業、継続3年目13事業、ステップアップ（新規1年目と継続2年目）2事業の計47事業を掲載しています。

※右端の「P」欄は掲載ページ



2016 年度助成団体一覧

新規助成 16 事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	家棟川の生態回廊の再生—ビワマスの遡上する川をつくる	特定非営利活動法人 家棟川流域観光船	6
滋賀	北近江びわこ見守り隊	湖国ひとまちネット	6
滋賀	中央分水嶺水源林再生事業	特定非営利活動法人 高島トレイルクラブ	6
滋賀	森と山の塾 2016	特定非営利活動法人 麻生里山センター	7
滋賀	野洲川北流跡自然の森創生プロジェクト	やす緑のひろば	7
滋賀	ふるさと蒲生野川づくり事業	蒲生地区まちづくり協議会	7
滋賀	Re 梵（リボン）大作戦～梵釈寺から始まる里山の再生～	特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会	8
滋賀	竹生島タブノキ保全プロジェクト	びわ地域づくり協議会	8
滋賀	大谷川周辺に生息するオオサンショウウオの生態系保全活動	古橋のオオサンショウウオを守る会	8
滋賀	ウィングプラザ（長浜市・米原市）一般廃棄物最終処分場周辺の環境・動植物・文化財・里山（びわ湖の水源山林）の保全活動	近江・里山の自然と文化財を学ぶ会	9
滋賀	障害児が体験・講座を通して「野菜・植物の育成」を学び&ふれあい事業	認定特定非営利活動法人 NPOぼぼハウス	9
京都	水遊び体験を取り戻す —子どもは川の子プロジェクト—	特定非営利活動法人 子どもと川とまちのフォーラム	9
京都	協働によるふるさとの自然環境保全を図るための基礎資料調査	エコパートナーシップうじたわら	10
京都	伏見稲荷大社 理想の森づくり	特定非営利活動法人 社叢学会	10
京都	21世紀の「鹿背山ものがたり」をつくるう～里山と都市の好循環を目指して	鹿背山元気プロジェクト	10
京都	放置竹林問題啓発活動	長岡京竹あそび連絡協議会	11

継続2年目助成 16 事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	日本百名城「観音寺城石垣」整備プロジェクト	近江八幡市豊かな杜づくり隊	12
滋賀	白鳥川流域の生物多様性と好循環社会へのモデル取組	白鳥川の景観を良くする会	12
滋賀	未来のびわ湖人育成のための学習支援事業	滋賀大学「環境学習支援士」会	12
滋賀	余呉湖周辺の保全・緑化の推進	一般財団法人 湖北水源の郷づくり	13

地域	事業名	団体名	P
滋賀	びわ湖流域赤シソ栽培ネットワーク事業 “Team Hira Perilla”	一般社団法人 比良里山クラブ	13
滋賀	ぼてじゃこトラスト次世代人材育成事業	ぼてじゃこトラスト	13
滋賀	未来に続く生物多様性の森育成事業	びわ湖りす森倶楽部	14
滋賀	里山保全・整備活動	総山管理委員会	14
滋賀	松尾寺山の里山整備活用事業	松尾寺山登山道保存会	14
滋賀	低農薬・無農薬野菜と環境こだわり米による地産地消の仕組みづくり	龍谷大学 北船路米づくり研究会	15
京都	遊休・休耕農地や放置森林等の再生・管理事業	特定非営利活動法人 オーガニック土の塾	15
京都	西山古道の自然環境保全に関する実践活動	特定非営利活動法人 京おとくに・街おこしネットワーク	15
京都	三川合流地点（木津川・宇治川・桂川）八幡市男山展望台周辺的环境整備事業	八幡市里山再生協議会	16
京都	鴨川生き物調査	特定非営利活動法人 ビオトープネットワーク京都	16
京都	森林・林業の多角的な体験・学習を通じた人材育成	特定非営利活動法人 京都・森と住まい百年の会	16
京都	里山 いきものがたり	里山的暮らし ECO TASK TEAM	17

継続3年目助成 13事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	河川環境美化作戦	竜王清流会	18
滋賀	中世城跡（鎌刃城）から里山再生	番場の歴史を知り明日を考える会	18
滋賀	平和川・黒橋川をきれいにする事業	金田学区まちづくり協議会	18
滋賀	街中美化運動はなのみち	街中美化運動はなのみち	19
滋賀	伊吹山自然再生・保全事業	伊吹山ネイチャーネットワーク	19
滋賀	棚田保全ボランティア活動	熊野・棚田を育てる会	19
滋賀	BDFをつくる・楽しむ・広げる高校生プロジェクト	特定非営利活動法人 菜の花プロジェクトネットワーク	20
滋賀	チェーンソーと軽トラで山を元気に！町を元気に！！ 甲賀木の駅プロジェクト	甲賀木の駅プロジェクト運営委員会	20
滋賀	大学生の力で外来水生植物から琵琶湖を取り戻そう	特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会 IVUSA	20
滋賀	里山体験隊2016	特定非営利活動法人 絵本による街づくりの会	21
京都	いかだに乗ってみよう ～山・川・まちのつながりの再生～	特定非営利活動法人 プロジェクト保津川	21
京都	はれザウルスの森の再生と涵養 ～カブトムシの棲む森へ～	特定非営利活動法人 おとくにパオ	21
京都	水源の里「古屋」の宝物再発見	古屋集落自主応援組織「古屋でがんばろう会」	22

ステップアップ助成1年目 1事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	山門水源の森の生物多様性の保全と獣害対策	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	22

ステップアップ助成2年目 1事業

地域	事業名	団体名	P
滋賀	びわ湖の森の間伐材買取事業	一般社団法人 k i k i t o	22

家棟川の生態回廊の再生 特定非営利活動法人 **家棟川流域観光船**
—ピワマスの遡上する川をつくる

活動場所 滋賀県野洲市の家棟川・童子川・中ノ池川
 所在地 520 - 0202 滋賀県野洲市菖蒲 262 番地
 設立年 2007 年 4 月 10 日
 会員数 47 名
 連絡先 077-589-5215
 HP



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

産卵のため遡上してくるピワマスが河床の岩や土で産卵できない状態にあるため、4ヶ所の川底を掘り、礫を入れ産卵床を造りました。そこで産卵する状況を水中カメラで確認することができました。3m以上ある落差工に単管パイプの簡易魚道を設置しましたが、ピワマスを遡上させることはできませんでした。また、市民の協力を得て産卵前にピワマスが捕獲されないように、1ヶ月半、毎日調査・監視活動してピワマスを守りました。

「環境や地域への貢献」

多くのピワマスが遡上・産卵の様子を観察できるようになり、地域の人たちが子ども連れで毎日観察するようになりました。まるで自然の水族館の様相となりました。12月にピワマスフォーラムを開催すると121名の参加があり、市民の関心の高さを知ることができました。その様子はNHKの6・30で放映され、京都・朝日・毎日・産経・読売新聞に掲載されました。

「助成金が活きたと思う点」

専門家の講演や現地指導への謝礼、連日の調査・監視活動費など、有効に活用することができました。お陰で本年3月の稚魚調査では21尾を捕獲することができました。

北近江びわこ見守り隊 湖国ひとまちネット

活動場所 滋賀県長浜市域びわこ周辺
 所在地 滋賀県長浜市口分田町 449-8
 設立年 2010 年 12 月 11 日
 会員数 53 人 (2017 年 4 月現在)
 連絡先 0749-63-9822 (電話・FAX)、HP



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

「私たちの地域は私たちの手で」という目標で、地域活動(文化スポーツ、福祉健康、環境美化・保全等)をしておられる人が集まって、サロンを通して研修、研鑽して各種事業を実施。環境美化・保全活動会員23人がいきいき体験講座等を実施し、会員の輪を広げています。

「環境や地域への貢献」

当会が設立して6年目を迎え、各種事業を展開の中、特に今年度は、環境美化・保全事業に力を入れて将来継続した活動として自立する年としました。いきいき体験講座として、活動報告の講座と現地での説明会を開催、琵琶湖周辺にある豊公園砂浜一帯の美化・保全活動、一級河川長浜新川の流域保全に力を注いでいます。自立活動に向けた第一歩です。

「助成金が活きたと思う点」

助成金を得て、電気ノコギリ、草刈り機、バーナーでの焼却機、長靴等の購入をしました。保全活動を実施するための作業の講座(機械の使い方等)と実作業を実施するとともに、この機会にまた個々会員が自己で購入し、地域の美化・保全に会員自らの手で活動していただくための研修も実施しました。会員も十数人が現在23人となり、さらに会員の輪を広げます。

中央分水嶺水源林再生事業 特定非営利活動法人 **高島トレイルクラブ**

活動場所 滋賀県高島市
 所在地 滋賀県高島市マキノ町牧野 931 番地内
 設立年 2012 年
 会員数 12 人
 連絡先 TEL:0740-22-6959、central-divide@takashima-trail.jp
 HP Facebook



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

中央分水嶺 高島トレイルは、トレッキングイベントで多くの登山者に「源流の里高島」の自然豊かな山々を楽しんでいただきました。しかし、10年の時の流れとともにナラ枯れで多くのミズナラやコナラが枯れ、また、ニホンジカが山の下草を食べつくし、今や航空写真では緑の山に見えますが、一步山に足を入れると下草がほとんどなく「緑の砂漠」とも言える森となっています。このような状況の中、元の豊かなバランスがとれた広葉樹の森に戻すため、次世代を担う青少年の健全育成「山育」と併せて、市民の方々取り組みました。

「環境や地域への貢献」

遠目に見ていた山も、一步足を踏み入れるとナラ枯れや、シカが木の皮を食べたりして、昔は豊かな森も今はボロボロになっている現実を、今回参加していただいた子どもたちや一般参加の方々に理解していただきました。今後は、少しでも元の森に戻る取り組みが必要であることを感じていただきました。

「助成金が活きたと思う点」

多くの子どもたちをフィールドに移動させるため、マイクロバスが必要でしたが、今回助成金で2台のバスが使える、46名の参加者に安全に安心して参加していただけたことでした。

森と山の塾 2016

特定非営利活動法人 麻生里山センター

活動場所 滋賀県高島市朽木麻生
所在地 滋賀県高島市朽木麻生 443
設立年 2006年
会員数 45人
連絡先 0740-38-8099、asosatoyama@zb.ztv.ne.jp
HP  Facebook 



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

私たちNPOが管理している里山の将来のありようを、一般参加者と一緒に考える連続10回（うち1回は雪のため中止）の体験講座を開催しました。山を利用しながら管理する、という私たちNPOの方針を下敷きにして、①里山の現状を知る②里山を管理するための現場での基本作業を体験する③収穫した里山の素材を活かす試みを体験する、という体験プログラムを展開しました。10年前にNPOができて、色々試みたり悩んだりしながら得たこともあり、そうした経験をまとめながら毎回オリジナル資料を作成し、参加者が里山を理解する助けになるよう配慮しました。

「環境や地域への貢献」


二次草原（ススキ、ワラビ）と二次林（クヌギ）の管理・利用、また繁茂する外来樹木（ニワウルシ）の整理と利用（燃料など）が進んだことが大きな収穫でした。

「助成金が活きたと思う点」

過疎のムラで里山を守るとはとほどういうことなのか、具体的にどんな里山の姿を目指すのか、地域外からの参加者と一緒に、これまでの活動を振り返りながら、まとめをする機会を与えてもらえたことです。

野洲川北流跡自然の森創生プロジェクト

やす緑のひろば

活動場所 滋賀県野洲市市三宅 野洲川北流跡自然の森
所在地 滋賀県野洲市久野部 125-13
設立年 2011年
会員数 40名
連絡先 〒520-2353 滋賀県野洲市久野部 125-13
代表 熊本正幸、077-586-0107、HP 



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

竹が繁茂し荒廃していた野洲川河辺の森の竹の伐採、散策路の整備、実生の育成などを行い、自然豊かな森になるよう整備しています。JR野洲駅から徒歩で15分程度と市街地に近く地域の子どもたちがカブトムシを捕まえたり、山の探検など身近に自然に親しめる里山として次世代に残せるように取り組んでいます。

「環境や地域への貢献」


整備が進み散策に訪れる地域の皆さんが増えたり、近くの保育園の子どもたちの散策コースになるなど活用されています。近くの北野小学校の3年生にはカブトムシの幼虫など生き物を観察、また森を探検し自然環境を学べる所にもなっています。初夏にはタケノコ採り、焼きタケノコ、秋には、竹飯や自然観察会など子どもたちが自然に親しめる機会を作り好評を得ています。また、この活動を通じて地域の企業事業所や自治会との繋がりや仲間の交流も深まり、地域の元気に貢献しています。

「助成金が活きたと思う点」

機器燃料や替え刃など消耗品の調達はもちろん、竹の活用を図るため竹パウダー粉砕機器の借用、子どもたちの楽しみとして森の中に檜を作る資材調達にも活用、元気の出る活動できました。

ふるさと蒲生野川づくり事業

蒲生地区まちづくり協議会

活動場所 滋賀県東近江市蒲生地区（旧蒲生町）
所在地 〒529-1531 滋賀県東近江市市川原 461-1
蒲生コミュニティセンター内
設立年 2006年11月
会員数 蒲生地区住民全員が会員（約15,000人）代表として115人（自治会代表42人、自治会まちづくり委員42人、地域活動団体代表31人）
連絡先 TEL・FAX:0748-55-3030、HP 



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

6月から9月の第3土曜日を蒲生野川づくりの日と決め、地域の代表的な佐久良川と日野川の草刈、樹木の伐採、道路の草刈、ゴミ拾い、憩いの場の整備等を実施しました。参加者は自治会連合会、各種団体等、地域全体から延450名の皆様に参加していただきました。

「環境や地域への貢献」

事業の目的である近畿の水がめ母なる琵琶湖を守る川づくり。川の環境を守り川の大切さを啓発し次代につなぐ川づくり。運動会や夏祭り等の行事に役立てる環境整備の実施。湧水場所の除草により魚にやさしい環境づくり。河川の除草、ごみ拾いにより微力ながら琵琶湖総合保全整備計画への貢献。事業をTVや新聞等で取り上げられ、川の大切さを地域の皆様に伝えられたこと。

「助成金が活きたと思う点」

地域の皆様に河川の環境啓発用のポスター、のぼり旗、全戸配布のチラシの作成ができたこと。事業にご参加の方へのお茶や、鎌などを準備できたこと。このことにより、例年の1.5倍の地域の皆様に参加していただきました。これらは、ひとえに助成金のおかげと感謝申し上げます。

* HP Facebook Twitter : 団体としてサイトやアカウントを持っている印 (団体名で検索)

Re 梵 (リボン) 大作戦 ~梵釈寺から始まる里山の再生~ 特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会

活動場所 滋賀県東近江市
所在地 滋賀県東近江市建部北町 531
河辺いきものの森ネイチャーセンター
設立年 1998 年
会員数 会員 42 人 ボランティア会員 60 人
連絡先 0748-20-5211、ikimono@e-omi.ne.jp HP



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

里山の手入れができなくて困っている地域と里山保全 NPO である遊林会とが連携することで、本来の豊かな自然を取り戻します。

「環境や地域への貢献」

主に、昔の棚田跡の道の再開拓、ナラ枯れによる危険木を伐り、繁りすぎた竹林・常緑樹の整備、そして薪割り機による薪の生産をおこないました。結果、森が明るくなり、ドングリの若芽も確認できています。地元の方からは「1年でもよくここまで！」という声をいただいています。

「助成金が活きたと思う点」

1つ目は、単独では難しい薪割り機の購入ができたことです。これによって他地域、他団体への貸し出しも可能になりました。

2つ目は、蒲生地域の詳細な植生調査が実施できたことです。この地域では詳しい植物のデータがないといった状況のなかで、専門家による貴重なデータがとれました。

竹生島タブノキ保全プロジェクト びわ地域づくり協議会

活動場所 滋賀県長浜市旧びわ町
所在地 滋賀県長浜市難波町 448
設立年 2007 年
会員数 70 名



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

竹生島は今やはげ山となり、緑がなくなりました。緑を取り戻すため小学生と地元住民ボランティア・大学関係有識者がタブノキの再生に取り組みます。島に現在自生しているタブノキの実生苗を採取して持ち帰り、3年から4年で大きく育てた苗を島に移植します。この取り組みで、タブノキを順調に生育させ、移植した苗周辺の除草を行うことでタブノキ苗に光や周辺の環境を整え成長を促します。百年先竹生島は緑豊かな元の島に戻ります。

「環境や地域への貢献」

タブノキ保全活動を通し、小学生への事前学習で環境学習に取り組み、地域住民も関心を高め、タブノキの保全活動には多くのボランティアが集まり、大学教授の環境研修会もタブノキ保全活動への関心は高かったです。

「助成金が活きたと思う点」

びわ地域づくり協議会が事業の主体となりましたが、事業の大半は島へ移動する乗船費用になります。市からの70万円の補助金は他の事業にも必要で、財団の助成金により小学生や地元ボランティアが保全活動に取り組みことができました。また、日々の管理運営に島へ行く船代に欠かせない経費です。

大谷川周辺に生息するオオサンショウウオの生態系保全活動 古橋のオオサンショウウオを守る会

活動場所 滋賀県長浜市木之本町古橋
所在地 滋賀県長浜市余呉町下余呉 950
設立年 2014 年 4 月
会員数 約 10 名
連絡先 〒 529-0521 滋賀県長浜市余呉町下余呉 950
TEL:0749-86-2347・090-5062-2206、
FAX : 0749-86-2152、murakami.nobuo2016@gmail.com



「夏原グラントで実施した事業の紹介」

長浜市木之本町古橋の大谷川で砂防ダム計画中に、オオサンショウウオが発見されたのは2002年の夏です。その後、県による調査が実施され、2014年度からは本会が独自に保全活動を行っています。住民参加の生き物調査、夜間の生息調査、迷子の個体保護活動、シンポジウムの開催などが主な活動です。

「環境や地域への貢献」

オオサンショウウオの存在は広く知られるようになり、保護につながる情報が多く寄せられるようになりました。すでに72個体が確認できています。落差工を魚道に切り替える事業も県により順調に進んでいますし、住民の保全意識も高くなってきています。

「助成金が活きたと思う点」

本会の活動は、長浜バイオ大学の全面協力によって成果を上げています。助成金はチップの読み込み機械の購入、染色体のDNA鑑定に使われ、現時点では当地のオオサンショウウオは、ハイブリッド(雑種)ではなく、日本古来の純系であることが判明しました。